

2020年3月期決算 会社説明会

2020年6月9日

山口フィナンシャルグループ

目次

2019年度決算について

- 1) 2019年度決算概要(連結)	4
- 経常利益増減要因(連結)	5
- 決算概要(銀行単体)	6
- 2) 貸出金残高	7
- 3) 貸出金利回り／利息	8
- 4) 与信費用／不良債権	9
- 5) 役務関連収益	10
- 6) 有価証券	11
- 7) 自己資本比率(連結・銀行単体)	12
- 8) 2020年度通期業績予想(連結・銀行単体)	13
- 経常利益増減要因(連結)	14

中期経営計画の進捗

- 中期経営計画のビジネスモデル	16
- グループガバナンス体制改革	17
- 新型コロナウイルスへの対応について	18
- 金融モデルの“SHINKA”	20
- 法人事業戦略	21
- リテール事業戦略	24
- 愛媛銀行との業務提携（西瀬戸パートナーシップ協定）	26
- イノベーション／情報・データ／投資	27
- 地域共創モデルの確立	32
- 地方創生に向けた連携	38
- チャネル	39
- 政策投資株式/配当	42

参考資料

2019年度決算概要

1) 2019年度決算概要(連結)

(億円)	2018年度	2019年度	前期比
コア業務粗利益	996	986	▲ 9
資金利益	880	881	+1
うち預貸金利益	707	708	+1
うち有価証券利息配当金	199	215	+15
役務取引等利益	148	137	▲ 10
経費 (△) (臨時処理分除く)	710	694	▲ 15
コア業務純益	286	292	+6
経常利益	334	366	+31
親会社株主に帰属する当期純利益	231	253	+22
与信関係費用 (△)	76	121	+45
経費 (△) (臨時処理分含む)	713	692	▲ 20
有価証券関連収益	299	372	+72

決算概要

- >> 親会社株主に帰属する当期純利益は、253億円となり、前年同期比+22億円
- >> 主な変動要因
 - ・有価証券関連収益の増加 (+72億円)
(内訳)
 - ・利息配当金 (+15億円)
 - ・売買損益等 (+57億円)
 - ・与信関係費用(△)の増加 (+45億円)

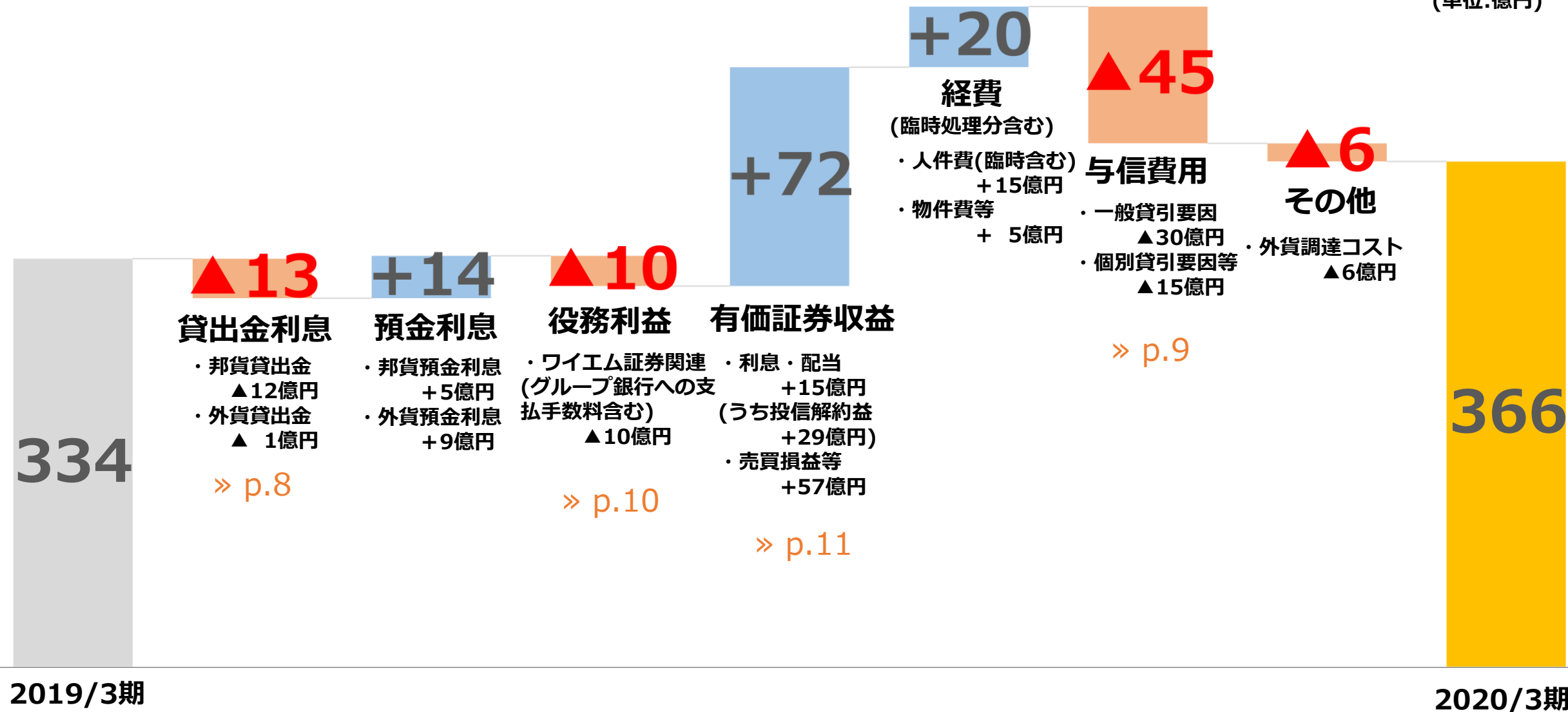
連単差

3行合算当期純利益	333億円
のれん償却費	▲3億円
FG連結調整等	▲77億円
YMFG連結純利益	253億円

2019年度決算 経常利益増減要因(連結)

» 貸出金、役務、有価証券、与信費用については各ページに詳細記載

(単位:億円)



2019年度決算概要(銀行単体)

» 特にもみじ銀行で与信費用が増加したが、有価証券関連収益等により当期純利益333億円（前期比+43億円）

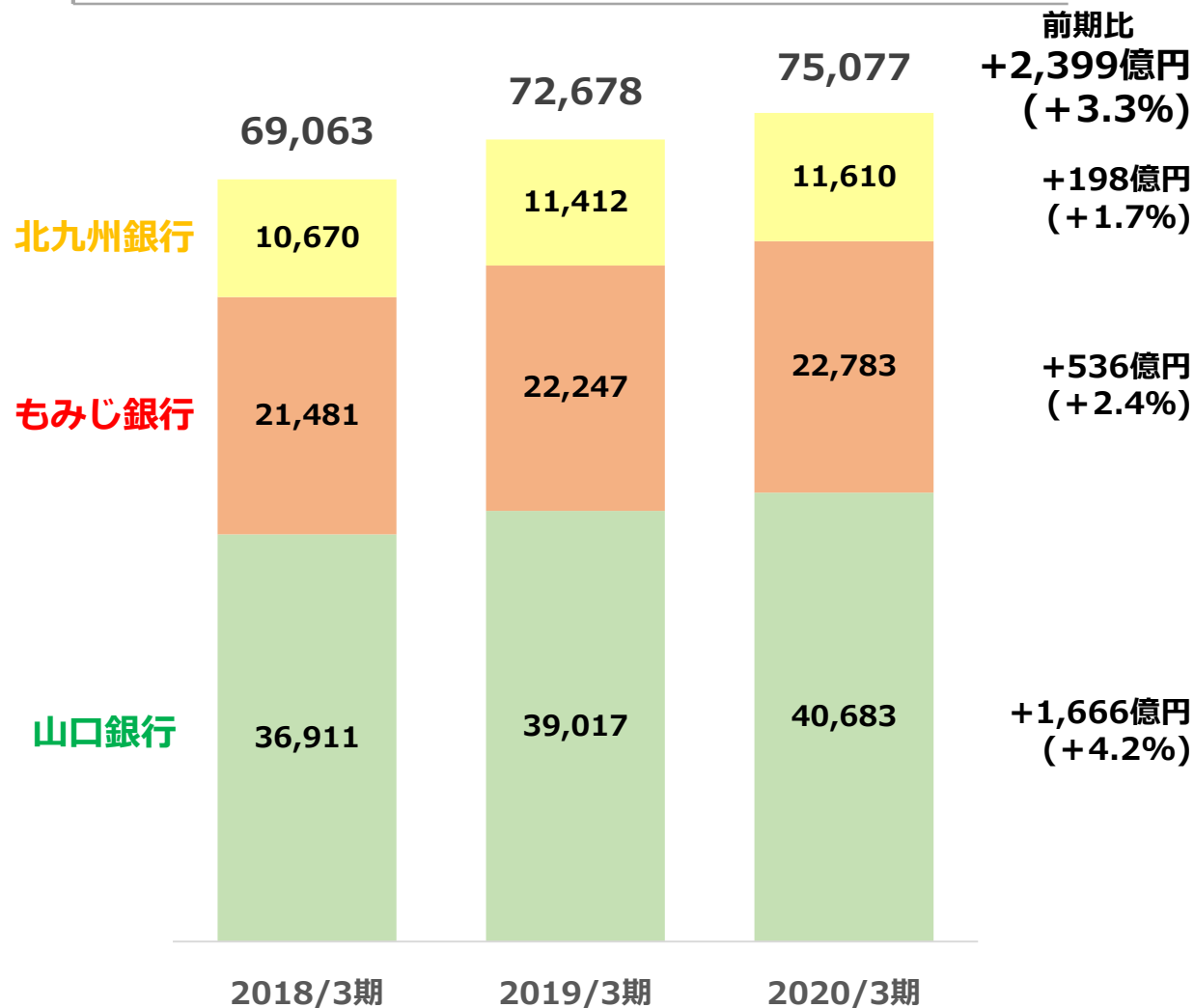
(億円)	3行合算		山口銀行		もみじ銀行		北九州銀行	
		前期比		前期比		前期比		前期比
コア業務粗利益	900	▲ 0	503	+7	281	▲ 7	115	▲ 0
資金利益	891	+0	513	+5	267	▲ 5	110	▲ 0
うち預貸金利益	711	+0	381	+2	222	▲ 1	107	▲ 1
うち有価証券利息配当金	214	+15	157	+22	51	▲ 7	6	+0
役務取引等利益	71	▲ 11	50	▲ 7	17	▲ 3	2	▲ 0
経費 (△) (臨時処理分除く)	541	▲ 24	271	▲ 9	194	▲ 13	74	▲ 1
コア業務純益	358	+24	231	+16	87	+6	40	+1
経常利益	438	+56	307	+54	76	▲ 19	54	+21
当期純利益	333	+43	230	+42	62	▲ 14	41	+15
与信関係費用 (△)	117	+44	59	+8	53	+39	5	▲ 3
経費 (△) (臨時処理分含む)	538	▲ 30	269	▲ 11	192	▲ 16	75	▲ 2
有価証券関連収益	372	+77	262	+53	87	+6	22	+17

2) 貸出金残高

- ▶ 貸出金平残は3銀行すべてで増加し、前期比+2,399億円 (+3.3%)、うち邦貨貸出金で+2,189億円 (+3.1%)
- ▶ 事業体別では大企業の伸びが大きく、前期比+1,269億円 (+7.7%)

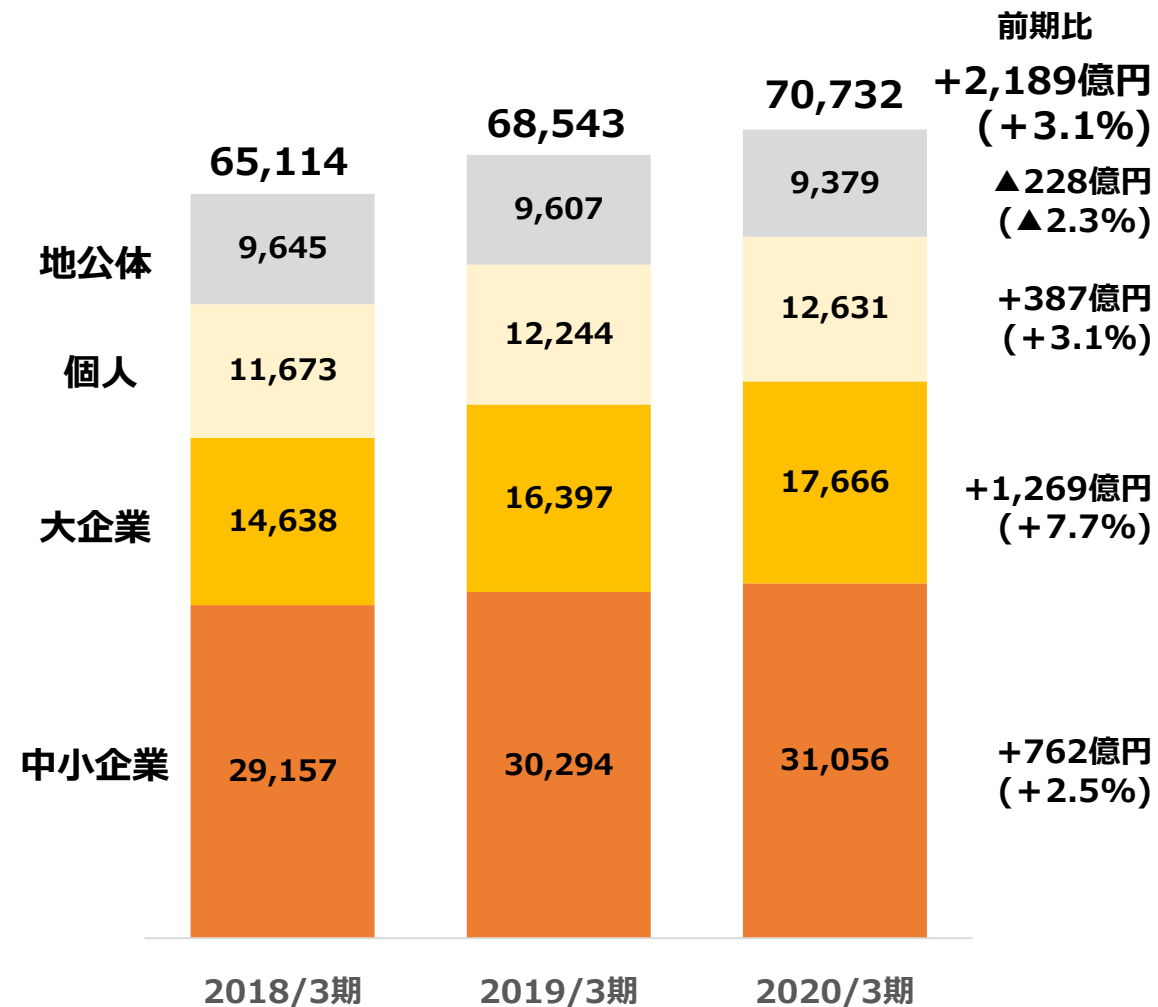
貸出金平残 (銀行別)

(単位:億円)



邦貨貸出金平残 (事業体別)

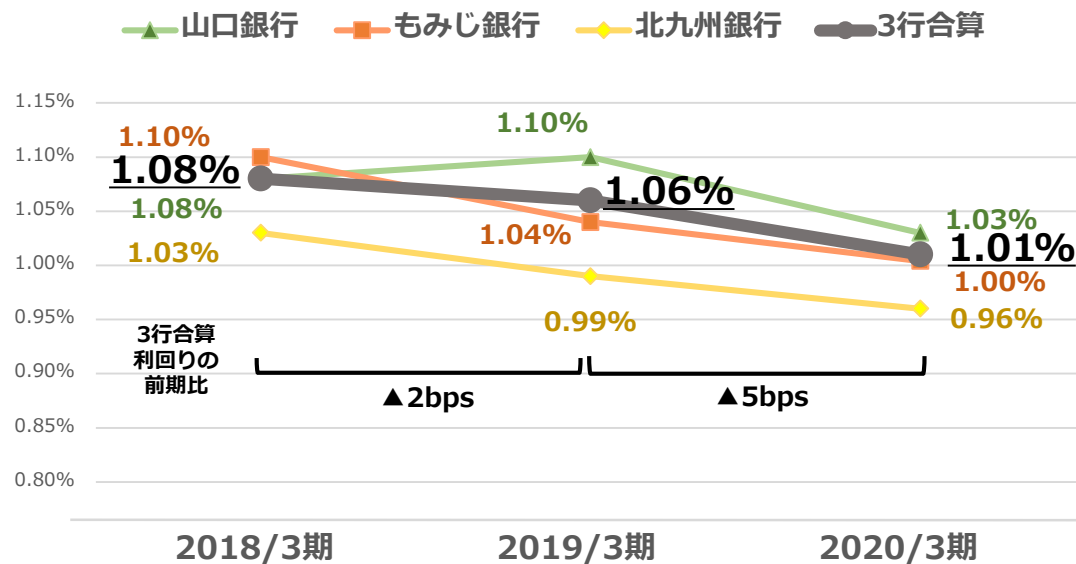
(単位:億円)



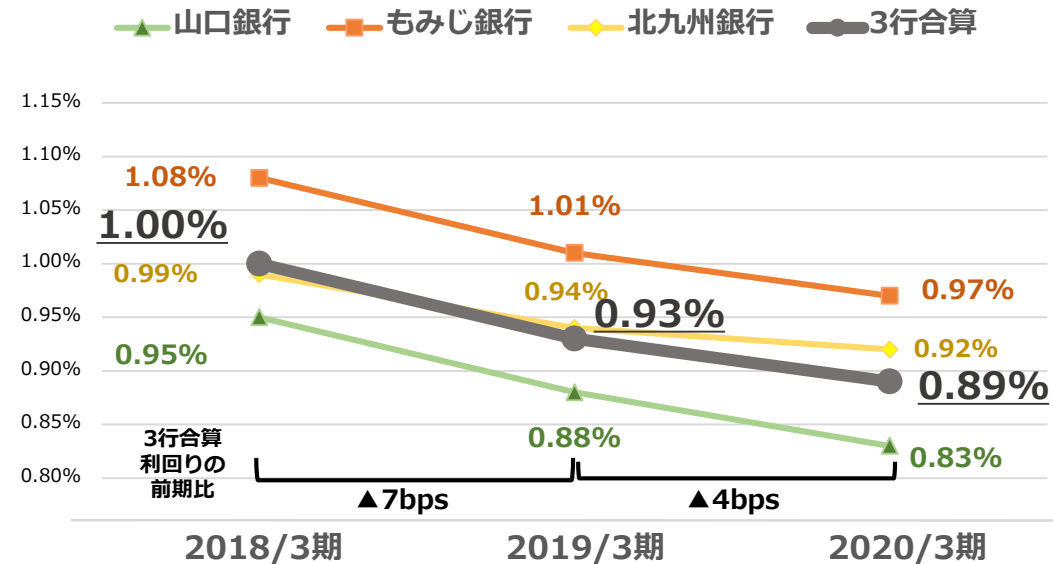
3) 貸出金利回り／利息

- ▶ 貸出金利回りは、邦貨貸出金利回りの低下幅縮小が続くも、外貨貸出金利回り低下の影響もあり全体では低下
- ▶ 3行合算の貸出金残高は増加基調だが、利回りの低下をカバーできず貸出金利息は減少

貸出金利回り

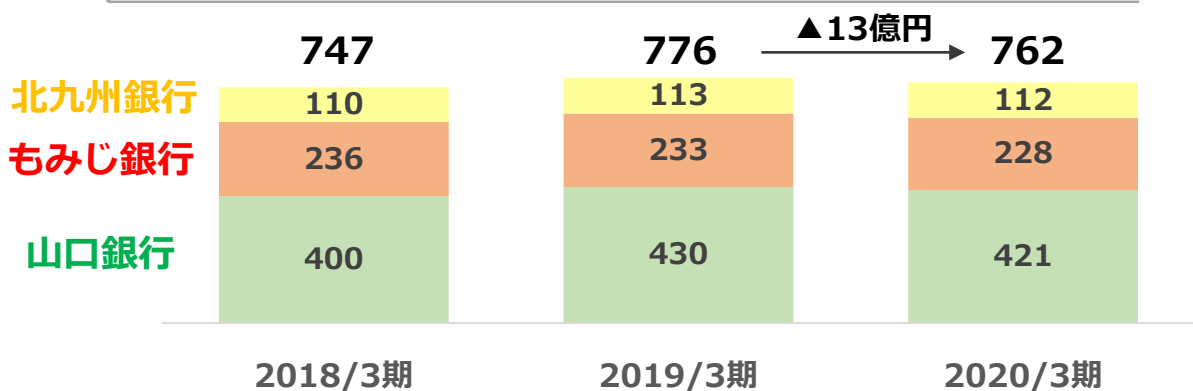


邦貨貸出金利回り



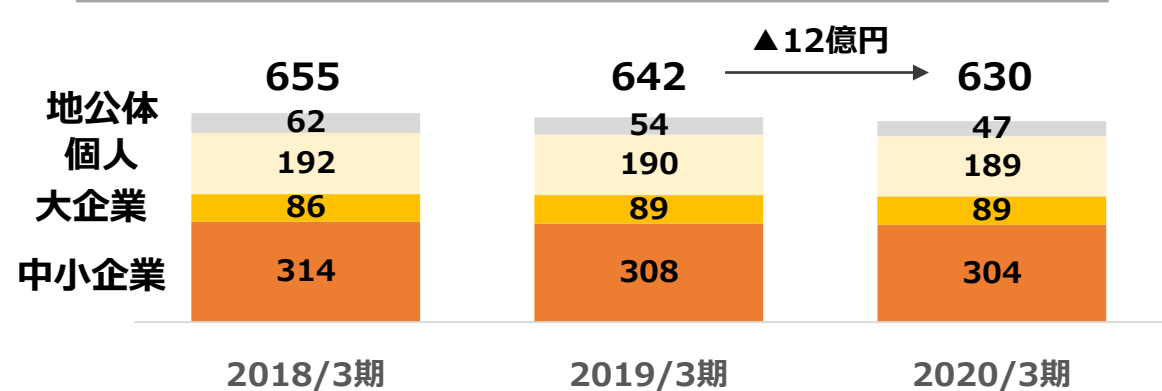
貸出金利息(銀行別)

(単位:億円)



邦貨貸出金利息(事業体別)

(単位:億円)

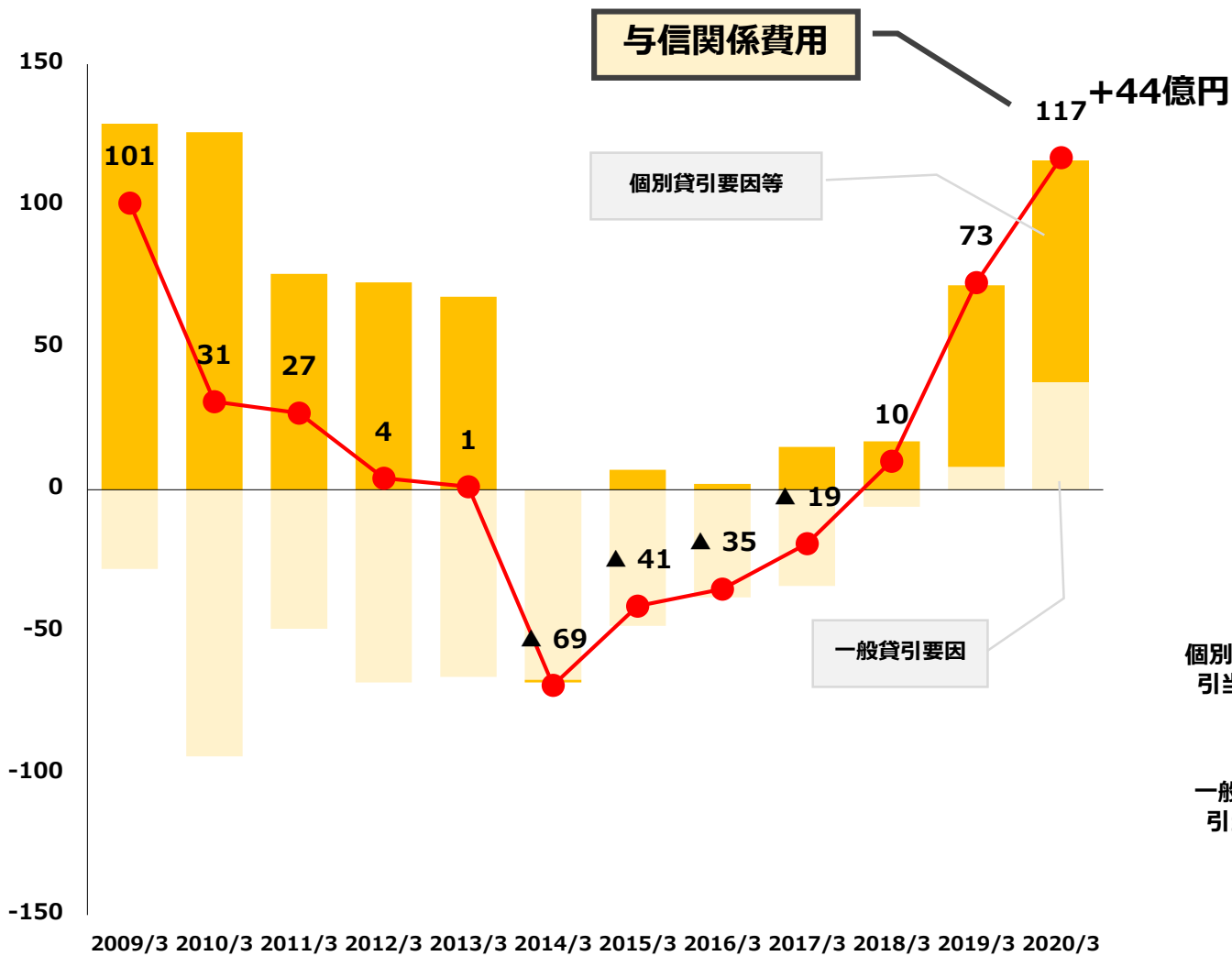


4) 与信費用／不良債権

- › 与信関係費用(3行合算)は、特にもみじ銀行の費用が増加したことを受け、前期比+44億円
- › 金融再生法開示債権残高は2019/3期と同水準を維持

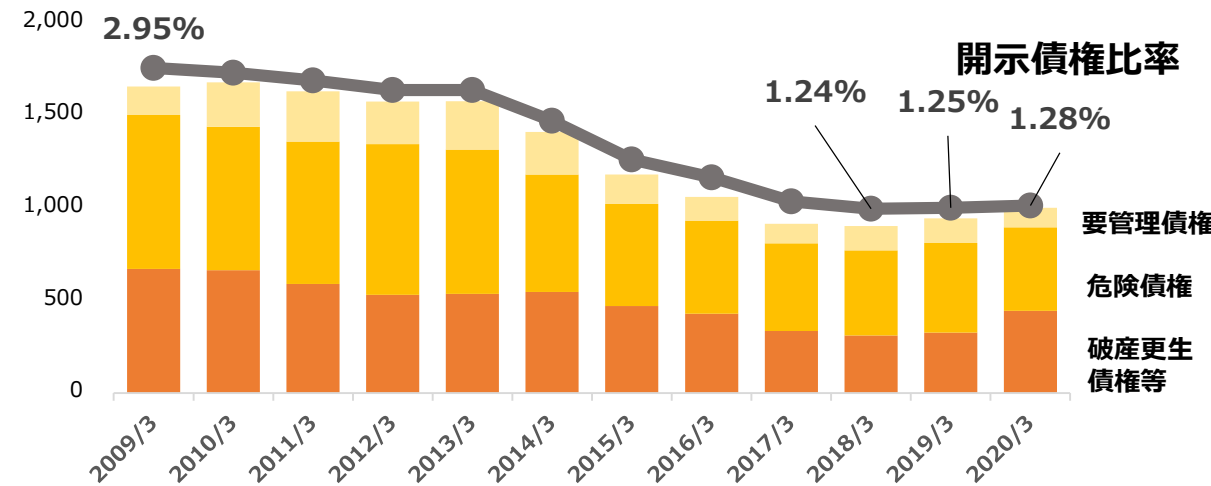
与信関係費用(3行合算)

(単位:億円)



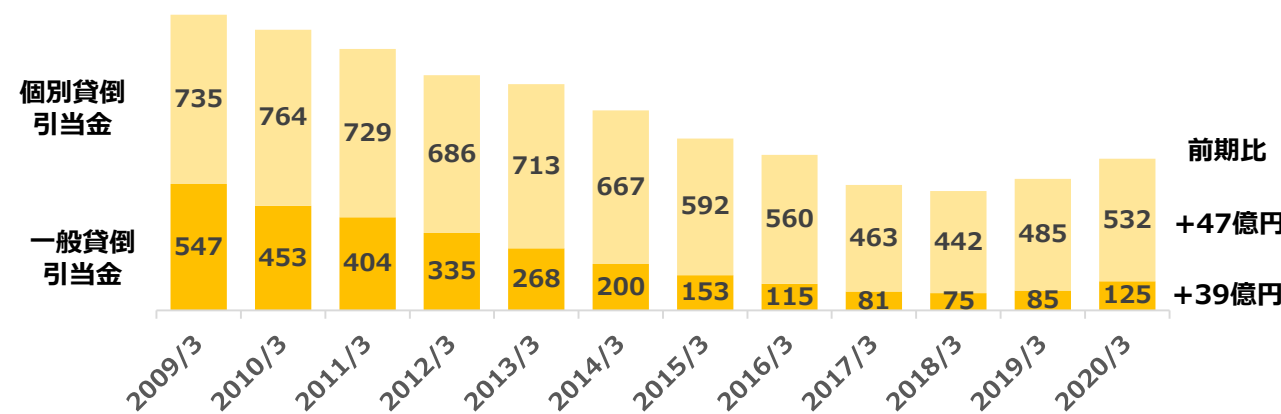
金融再生法開示債権残高(3行合算)

(単位:億円)



貸倒引当金残高(FG連結)

(単位:億円)

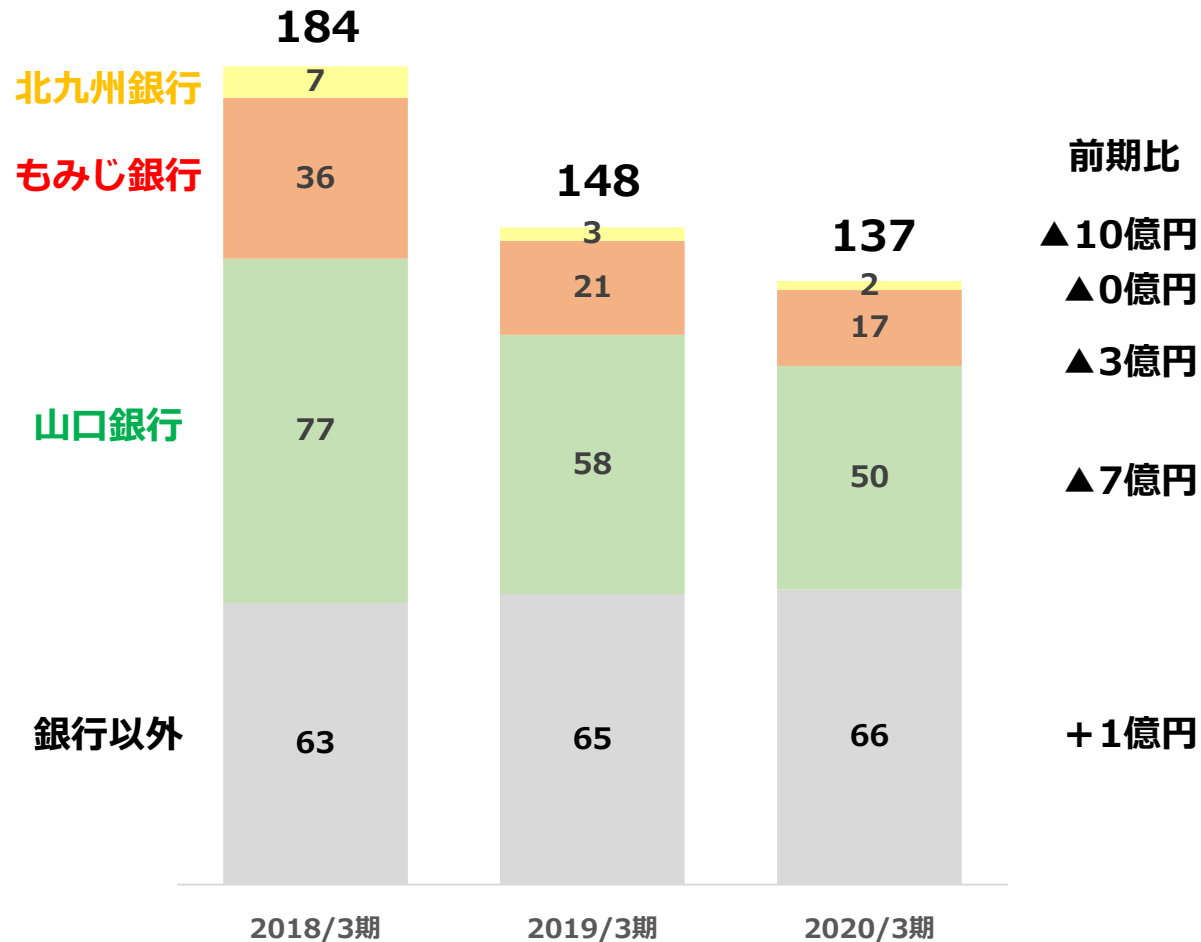


5) 役務関連収益

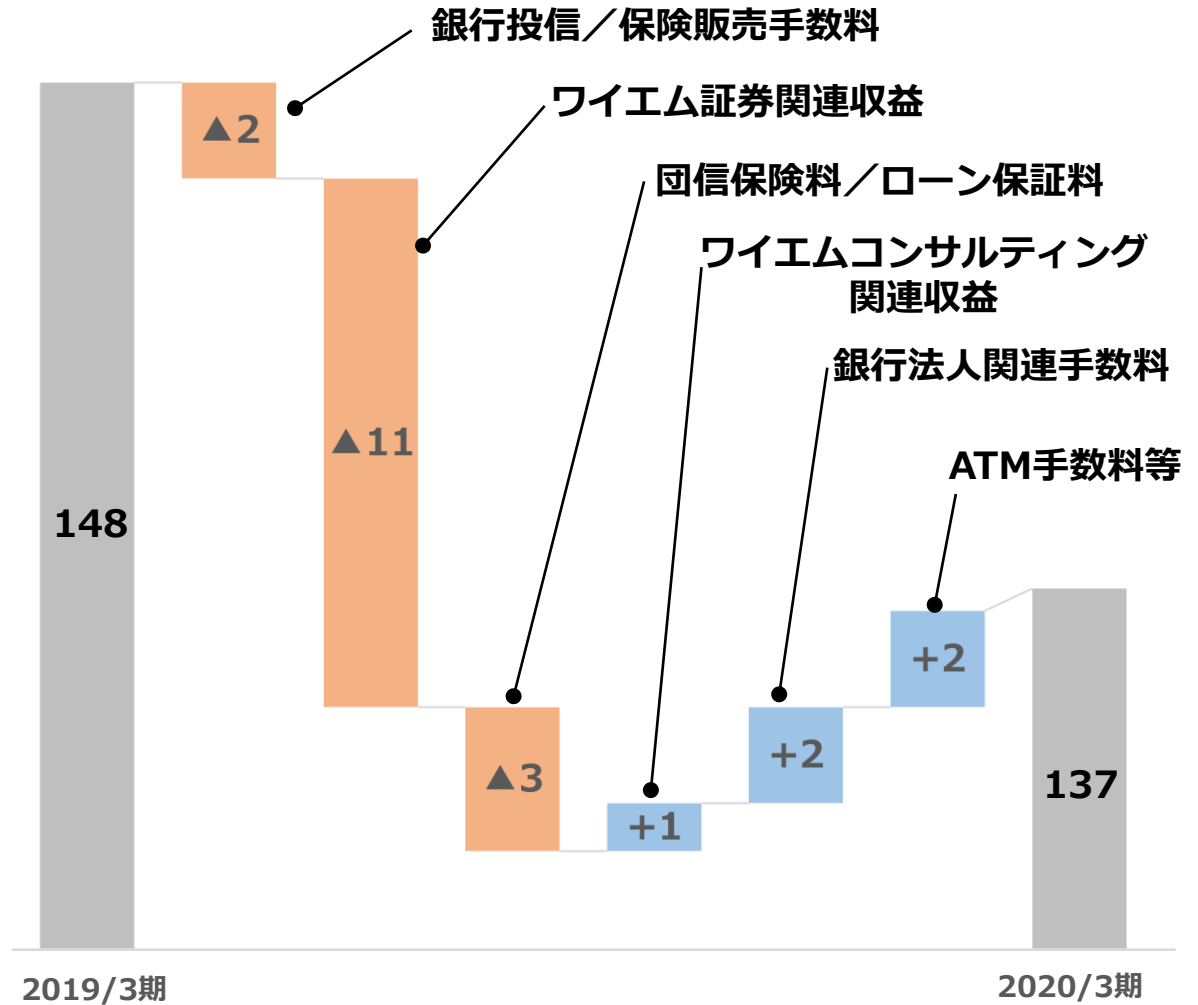
» 投信・保険・証券手数料減少の影響等により、連結役務取引等利益は前期比▲10億円

役務取引等利益(FG連結)

(単位:億円)



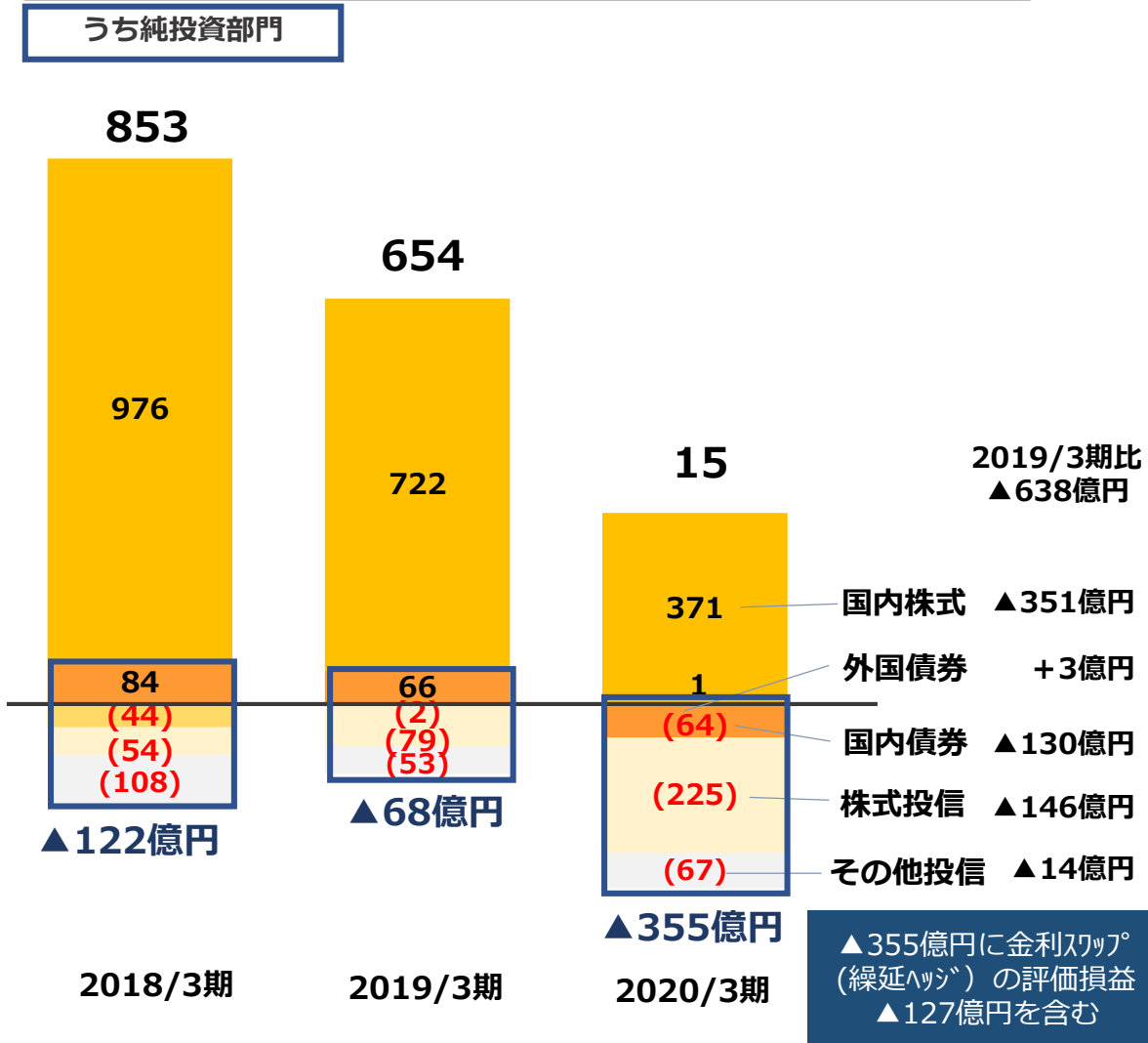
変動要因の主な内訳



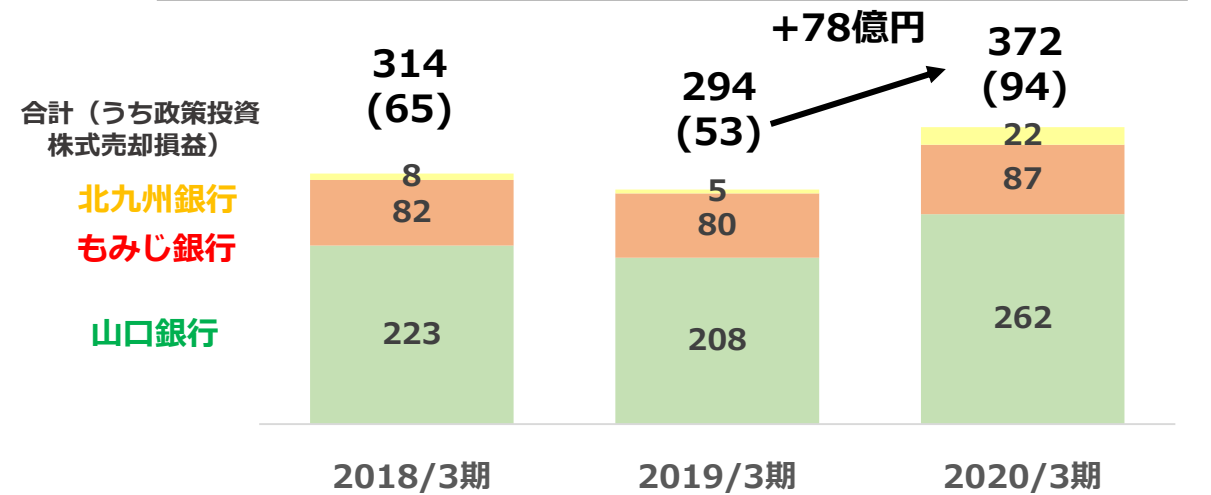
6) 有価証券

» 3月の株価急落の影響から、評価損益は大幅に悪化（前期比▲638億円）

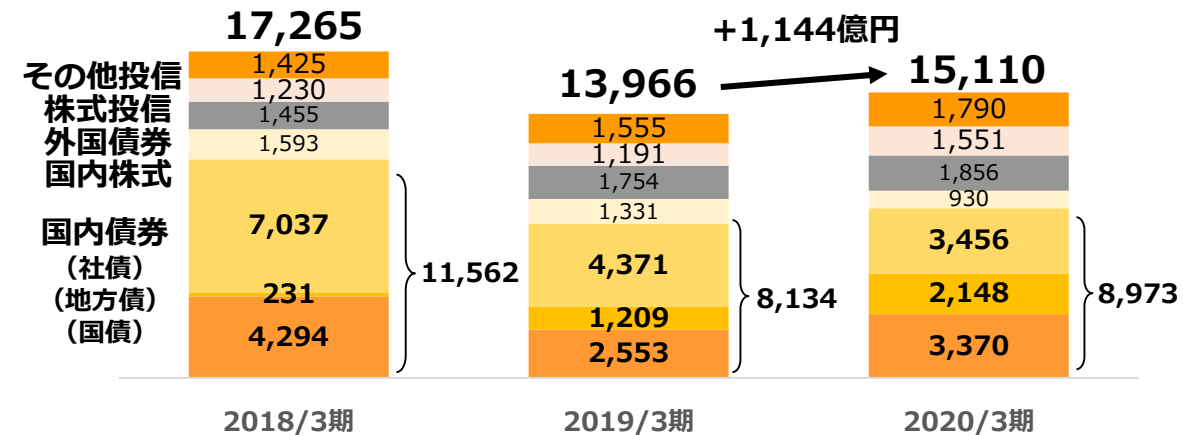
その他有価証券の評価損益(3行合算) (単位:億円)



有価証券関連収益(3行合算) (単位:億円)



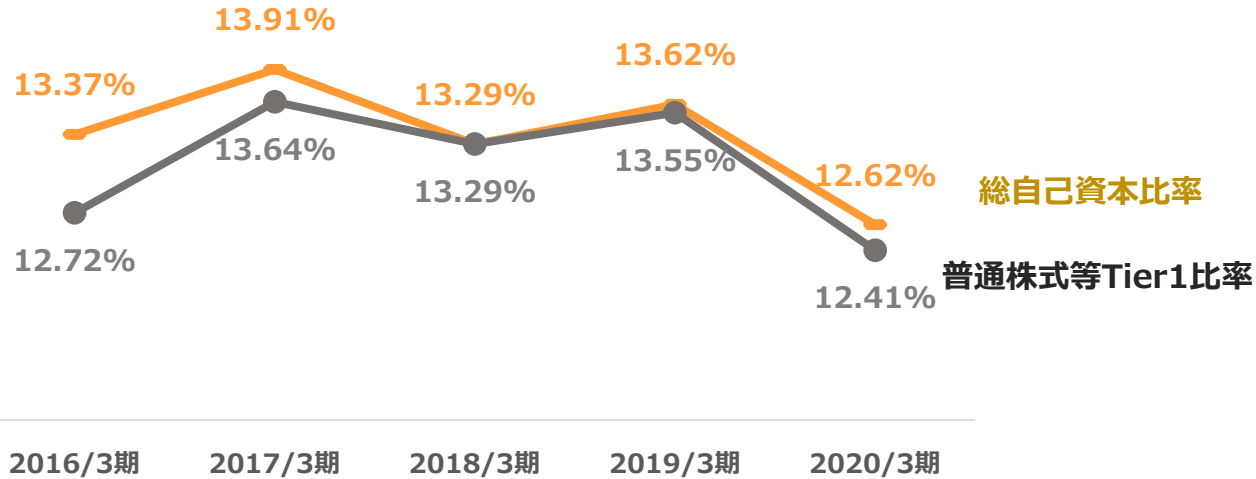
有価証券時価残高(3行合算) (単位:億円)



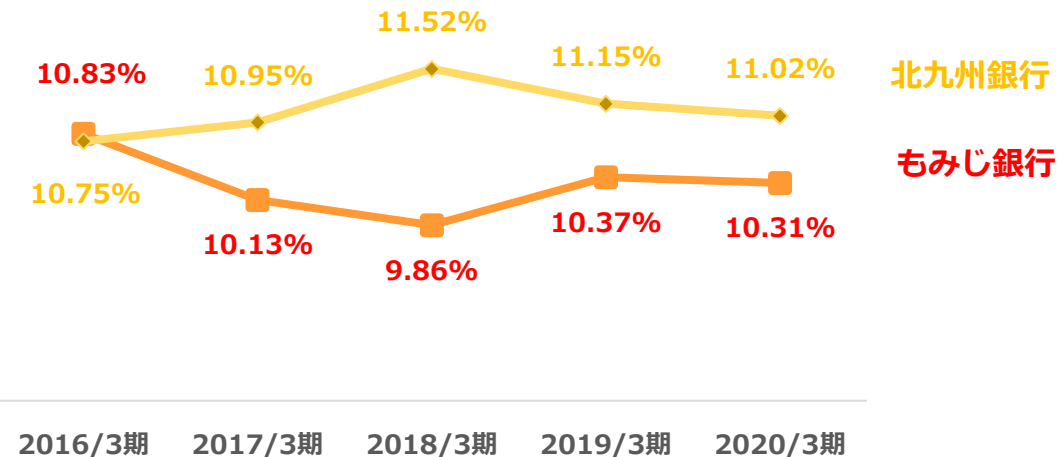
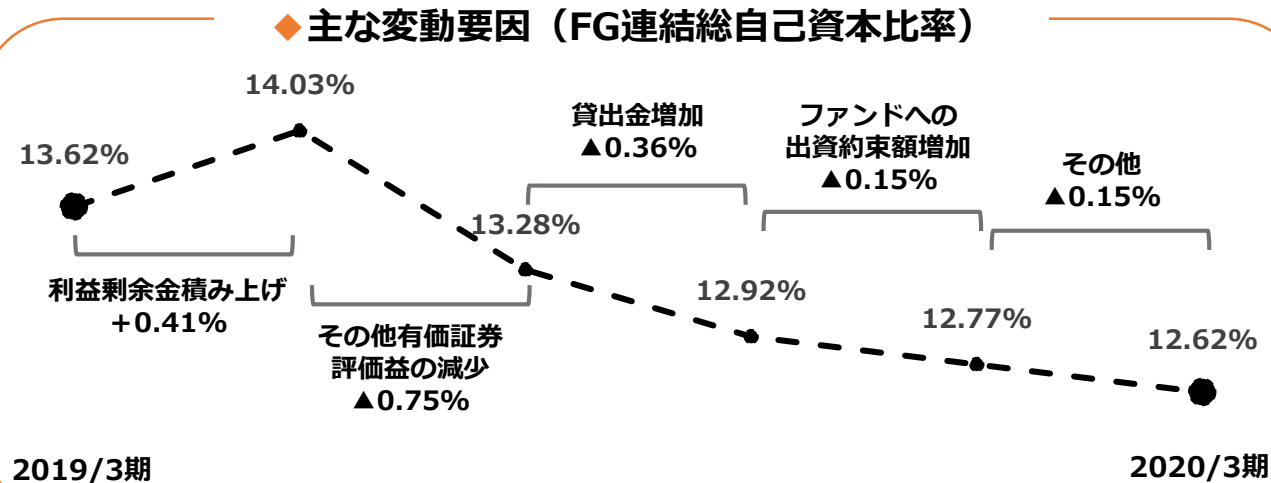
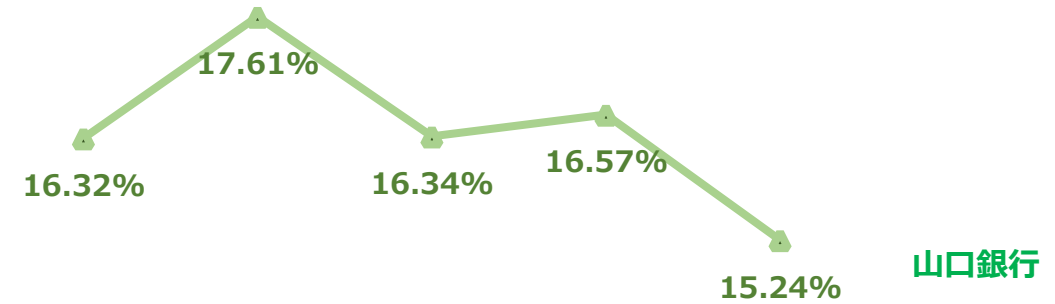
7) 自己資本比率(連結・銀行単体)

- » その他有価証券評価差額金の減少に加え、貸出金増加、ファンドへの出資約束額の増加を主因とし、連結総自己資本比率は前期比▲1.0%の12.62%

山口フィナンシャルグループ連結



グループ内銀行の自己資本比率



※山口銀行は国際統一基準により、もみじ銀行および北九州銀行は国内基準によりそれぞれ算出

8) 2020年度通期業績予想（連結・銀行単体）

» 預貸金利益、役務利益の増加により、経常利益350億円、当期純利益230億円を見込む

(億円)	FG連結		山口 銀行		もみじ 銀行		北九州 銀行	
		前期比		前期比		前期比		前期比
コア業務粗利益	1,025	+38	498	▲ 4	285	+3	127	+12
資金利益	831	▲ 50	462	▲ 51	260	▲ 6	117	+7
うち預貸金利益	748	+39	401	+19	234	+12	115	+8
うち有価証券利息配当金	147	▲ 67	106	▲ 50	35	▲ 16	5	+0
役務取引等利益	227	+89	61	+10	22	+4	6	+3
経費（△）（臨時処理分除く）	687	▲ 6	262	▲ 9	187	▲ 6	70	▲ 4
コア業務純益	337	+44	235	+4	97	+10	56	+16
経常利益	350	▲ 16	245	▲ 62	70	▲ 6	45	▲ 9
(親会社株主に帰属する)当期純利益	230	▲ 23	175	▲ 55	57	▲ 5	34	▲ 7
与信関係費用（△）	130	+8	57	▲ 1	54	+1	14	+8
経費（△）（臨時処理分含む）	666	▲ 26	251	▲ 18	176	▲ 16	70	▲ 5
有価証券関連収益	203	▲ 168	155	▲ 107	43	▲ 43	4	▲ 18
貸出金平残	78,992	+3,916	42,691	+2,008	23,954	+1,171	12,347	+737
貸出金利回り(%)	1.01%	▲0.01%	1.02%	▲0.02%	1.01%	+0.00%	0.97%	+0.00%

2020年度通期業績予想 経常利益増減要因(連結)

(単位:億円)

